

# 『愛染王紹隆記』

— 解説と翻刻 —

永井義憲

昭和三十五年から始められた榎田良洪博士を中心とする大正大学史学研究室関係諸君の東寺宝菩提院の三密蔵の調査によって、そのおびただしい古写仏教文献の中から国文学関係の古写本も数は少いがいくつか発見された。いまここにその本文を翻刻しようとする『愛染王紹隆記』もその一つである。この書の概要は榎田博士がすでに「虫余漫筆(1)―愛染王紹隆記―」(大正大学学報第二二二号、昭和三十九年三月)と題して紹介せられ、ほぼ同じ内容で「仏教史学」(第八卷第三号)にも公表せられている。しかしその本文は紹介せられていないので、ここに榎田博士のお許しを得て翻刻しようと思う。なおはじめてこの書に接する人のために愛染明王の信仰のおよそと、この書の伝来、成立その他を記しておきたいと思う。

この『愛染王紹隆記』は愛染明王の靈驗を説き、その十種の徳と、この信仰によって得益を受けた人たちとその事柄を説いた靈驗談の集録であって、文章はやや生硬で、必ずしも他の仏教説話集とよばれるものの如く文学的興趣をそそられるものは多いと言えない。しかしそこにとりあげられた人物も説話も、著名なものが多く、他の説話集所載のものと同種である点が多い。長野嘗一氏は説話を説話文学と説話

文献との二つに分けて考えておられる。『説話文学辞典』所載概説) この書も説話文献とよぶべきが適當であるかも知れないが、ともあれ内容には説話の流布展開を知るべき記述が多く、その他文学史、思想史あるいは仏教史などの観点から見て貴重な資料が点在している。

愛染明王の梵名 Rāga は彩色、赤色、愛情、情欲などの意で、また別名を愛染王、染愛王という。この仏は衆生の本有俱生の欲染をただちに淨菩提心の金剛薩埵の染愛三昧の化身の愛染明王とし、『金剛王秘密儀軌』では鉤召の徳あって、民がみな王に帰するが如くに衆生を鉤召するが故に愛染王と名づけ、金剛王菩薩の化身であると説き、またこの尊は衆生をして仏の妙法に愛着せしめ、煩惱即菩提の理に入らしめる金剛愛菩薩の化身でもあるとしている。薩・王・愛・喜の四菩薩は本身は金剛薩埵即大日の故に大日如来であるとしているので、この尊の造像も真紅の日輪を背にしており、空海が請来の『金剛峯楼閣一切瑜祇經』が本軌となっている。この尊も空海の請来が最初とされているのであって録外ではあるが愛染曼荼羅の存在が伝えられ、『平等院宝藏目録』(竜門文庫蔵)には空海所持の八寸の像が納められてあったという。その他に恵運、円仁、円珍、宗叡など入唐八家のうち五人までがこの尊を請来したと伝えており、平安中期以降においては明王部の諸尊のなかでは不動明王についてこの愛染明王が崇拜

されていた。愛染明王法はこの尊を本尊とする修法で敬愛調伏などに修した事例が多いが、醍醐で専ら行われ仁和寺辺では疎であったといわれており、小野流の秘法として特に重んじられていた。この書のなかでもその靈験はさまざまに説かれているが、特に世間的には後三条院の護持僧であった成尊が、愛染王法七日を修して間もなく即位せられたことが知られていたようである。梅原隆氏は人間の煩惱を仏心にみちびくこの仏を愛のディオニソスとして説かれたあと「日本の文学、特に中世の文学にはこのような愛欲の歓喜と苦悩の叫びにみちている文学の精神とは無関係ではあるまい。」(『続仏像―心とかたち―』)と言っている。近世に入ると愛染の語を藍と染とに解釈して染色業者の守護仏として尊崇せられて来たがそのほかにも財宝自ら湧出するその儀軌による画像が商業者にとっては深い魅力となったのであろう、今も染物業者の間には深い信仰が見られる。

## 二

新たに宝菩提院の秘庫三密蔵より発見されたこの書は縦二五厘横一六厘、二十六葉、紺表紙袋綴で一葉七行より九行、一行二十字もしくは二十八字あつて一定はしていないがなかなかの能筆である。奥に明応七年(一四九八)の賢融二十四才の署名があるが、本文もその筆写と見るべきであらう。「伝領 俊雄」とあるは所持者をあらわしたのであるが、本文の訂正、傍記はこの俊雄と推測される。この筆録者の賢融については同じ三密蔵に『合殺抄』の書写本があり、その奥書により東寺宝輪院止住の学僧でありそこで書写したのであろうと櫛田博士は推測している。俊雄は宝菩提院の初代で広沢方西院流の巨匠であつたらしく附法の弟子に著名なものが多くという。賢融と俊雄の関係は不明だが、宝輪院の本は宝菩提院の収蔵となったものが多く、あるいはこの書もその一つかとは櫛田博士の推測である。

本書は巻頭に金剛愛染の本誓悲願は、最極甚深にして他にすぐるものである旨を説いて、その古来の感応靈験を、十種に分類して述べる

ことを明記している。その十種とは寿命長遠・病患除癒・栄官殊勝・福德円満・敬愛甚深・悉地速疾・摧伏怨敵・消除災難・発菩提心・往生淨土であつて、この順序にしたがつて小野仁海僧正を始め約四十名に及ぶ僧俗がその信仰による靈験を受けた事実が列記されている。そのほとんどが、高德名流の人たちであつて、特に慈円・公胤などを除いてはすべて東密系統の高僧であり、白河法皇、後三条院、など皇室関係を除くと特に藤原氏でも九条家系統の人たちが登場する。いま各条下に愛染明王を尊崇した人として触れられた人名をあげると次の如くである。

1 (寿命長遠) 小野僧正仁海、白河法皇、知足院殿(忠実)、前河内守光行入道、経範卿、某貴女。

2 (病患除癒) 御室(性信) 小野前大僧正親敵、高雄高弁聖人(明恵)

3 (栄官殊勝) 九条相国(師輔)、円城寺大僧正禎喜

4 (福德円満) 法性寺殿(忠通)、光明峰寺禅定殿下(道家)

5 (敬愛甚深) 堀河中宮(賢子)、寛鍬聖人、後法性寺准后(兼実)

6 (悉地速疾) 後三条院、東一条院、慈珍(鎮)僧正、随心院権僧

正宣敵

7 (摧伏怨敵) 嵯峨天皇、済高大僧都、御堂関白(道長)、小野僧

正(仁海)、西園寺入道大相国(公経)

8 (消除災障) 高祖大師(空海)、八幡别当光清、宮清法印、高野

御室(覚法)、三宝院権僧正勝寛、九条僧都隆聖

9 (発菩提心) 高野山検校琳賢阿闍梨、大吉祥院僧正公胤、定紹

阿闍梨

10 (往生淨土) 観果入寺、伊予入道頼義、小野権僧正範俊

これらの中でもっとも年記の新しいのは第一の末尾に、「建長第二ノ年、或貴女云々」と名は明記しないがこの年に愛染明王を信じて寿命つつがなかつたことを記しているのがそれであらう。さらに第四に光明峰寺禅定殿下の記事がある。櫛田博士は冬房とされたが、これは



道家で、「御子孫ノ繁昌ヲアクマデ御覽ジテ、御年六十ニナラセ給ケルハ(云々)」とある通り道家は建長四年(一二五二)六十才で歿している。大体において建長年間以後、それほどへだてぬころの成立と考うべきであろう。

### 三

作者についてもまた明記されていない。真言東密の僧であることは疑はないがさらに榊田博士も指摘されたように、第八に見える九条隆聖の信仰を述べて「当山修練星霜良久カリケリ」とあるは一つの有力な手掛りとなるであろう。この隆聖は他の僧伝にも全く記載せられていない無名の僧であるが、私はかつてこの隆聖こそ、有名な歌僧西行の一子であり、西行没後に京に召出されて愛染明王法の修法において重んぜられ、九条兼実の『玉葉』にもその名が見出され、藤原定家の『明月記』にもその交渉があったことを記されている僧であったことを述べたことがあるが、「西行の子―隆聖僧都のこと―」(四三年二月国文学踏査第八号)彼の前半生は伊勢における修法にとめていたと推測される。後に京に出てからは最勝金剛院に居住していたらしい。この寺は九条道家の東福寺建立と共に吸収され、のち元弘の乱で戦火を受けて全くその記録を失ってしまった。建長二年十一月の九条道家処分状によれば伊勢にもこの院の荘園があったらしく、おそらく隆聖の伊勢における修練につとめたという寺院、即ちこの書でいう当山も、この最勝金剛院と関係のあった寺院ではなかろうか。伊勢には西行ともゆかりの深い菩提山神宮寺もあった。伊勢は天照大神、大日如来、愛染明王と信仰的にもつながる地であるのでこの書の如きものを編集しようとする空気は十分あったものと考えてもよいから思

う。

以上本書について思いつくところを述べたがいま翻刻するにあたっては読解の便を計って、題名を附し、送り仮名、あるいは訓を附した

が、それらは全て(一)でつつんである。始め術語もしくは人名等に註を附する予定であったが省略した。

#### 愛染王紹隆記

#### (序)

夫(レ)仏日三世ヲテラシテ、内証ヲ楞伽ノ文ニアラハシ、竜樹八百ニイデテ芥子ヲ鉄塔ノトボソニナゲ給シヨリコノカタ、三密ノ法水ハルカニ東漸シテ、衆生ノ福田ウルヲヒ尤(モ)深シ。就中ニ瑜伽秘密蔵ノ利生方便ミナヲナシク難思ノ勝徳ヲ構(フ)トイヘドモ、金剛愛染王ノ本誓悲願最極甚深ニシテ、独尊衆法也。何ヲ以テ知(ル)トナラバ、聊本経ノ明文ヲ引テ、十種ノ験ヲアゲ、古来ノ感應ヲ訪テ、二諦ノ勝利ヲシメスベシ。

諸法ハ現量ニスギズ。吾朝ハ例証ヲ先トス。タトヒトリガタシトイフトモ、ナムゾ大悲利生ノ揭(ケチモン)焉ナル事ヲ仰信セザラムヤ。其十種靈驗者、一寿命長遠、二病患除愈、三榮官殊勝、四福德円満、五敬愛甚深、六悉地速疾、七摧伏怨敵、八消除災難、九發菩提心、十往生淨土也。

#### (一、寿命長遠)

先(ヅ)寿命長遠者、本経ニ儀形薩埵ノゴトクニシテ、衆生界ヲ安立ス。カタキコトハ金剛ノ性ニ住シ、マタキコトハ金剛ノ鉢トナラシメムトイヘリ。我朝高祖弘法大師ヒソカニ此法ヲ請来シ給ヘリ。而(シテ)ヲ機感時イタラザリシ間、アマネク世ニヒロメラル、ニヲヨバズ。本経ニ云。諸末法世中ノ善男子、善女子等ノ為ニヒロク利樂ヲ説トイヘリ。是(ヲ)以(テ)大師八代ノ御弟子小野僧正仁海、像法ノスエ、末法ノハジメニ及テ、頻(リ)ニ此尊ノ靈驗ヲヒロメ、粗(ホホ)秘法ノ名字ヲアラハシ給ヘリ。其ヨリコノカタ国家崇重、人臣額ヲタル。遂(ニ)則九十六ノ算ヲマ(ツ)タウシテ、寿命長遠ノ勝利ヲ示(シ)給ヘリ。

白河法皇者廿五御年、極(キハヤシ)タル御重厄也。延算ノ御祈計申(ス)ベキ



ヨシ遍智院僧都義範ニ召仰ケレバ、悉地成就ノ法ヲ修セラルベシト申給。殊(ニ)貴(キ)物カナトゾ勅答アリケル。件(ノ)法ハスナハチ愛染王法也。其後延算ノ祕事ヲ聞食<sup>テイヨク</sup>、<sup>ノ</sup>御誠ヲイタサレケリ。八角ノ円堂ヲタテ、御等身ノ像ヲ安シ、十口ノ供僧ヲ補シテ、長日護摩ヲカカル。御願ノ鄭重ナル古今ニナラビナク、朝家ノ規模タル只此<sup>ニ</sup>砌<sup>キ</sup>ニアリ。同(ジク)北御堂ニハ丈六ノ像三軀、等身ノ像百軀ヲ安置セサセ給ヘリ。然(ル)間、宝算八句ニヲヨビ、聖運四朝ニカシコク御<sup>サ</sup>セリ。神武天皇ヨリコノカタ子孫、二代ノ国位ヲミソナハス其例猶希ナリ。イハムヤ曾孫ノ治世マデヲ扶<sup>タスセ</sup>給ヘル。只此法皇也。仁德以往ハ申(ス)ニモヲヨバズ、履中以後四条院ニイタルマデ、六十九代ノ間、允恭、繼體、陽成等ノ二三代ノホカニハ彼法皇ノ御命ヒトシキハヲハシマサルヲヤ。イヅレモミナ十善ノ御果報也。天運シカラシムトイヘドモ、此尊ノ靈驗ヲ信ゼサセ給ニヨリテ、末代猶上代ニコエタリ。

知足院殿ハ高雄ニヲハシマシケル大師御作ノ愛染王ヲ相伝シテ、帰敬渴仰セサセ給ケリ。殊(ニ)壽命増長ノ御祈ヲキザシテ、理性院法眼賢覺、同弟子靜聖阿闍梨ニ仰付テ、此法ヲコナハセラレケレハ、色身堅固ニシテ、八十五マデタモタセ給ヘリ。忠仁公ヨリコノカタ、撰錄ノ臣三十代ニヲヨベリ。其中ニイヅレカ此御齡ニアヒナラバセ給ヘル。前河内守光行入道ハフカク此尊ヲ信シ奉<sup>タケマツリ</sup>テ、ネムゴロニ微功ヲイタシケリ。信心マコトアルユヘニヤ、靈驗ヲアラハス事一ニアラズ。草河ノ准后ノ御夢ニ、冥途ノツカヒ光行ヲトリテ、ユクトコロニ、赤色ナル人ノアカキ弓箭モチタルガヲ、ク出来テ、奪留ルアヒダ、彼使等手ヲムナシクシテ歸ヌト御覽ゼラレタリケリ。サテソノヨシヲ光行ニ仰ラレケレバ、愛染王ノ利生ニテゾ候ラム。正月ヨリハジメテ十二月ニイタルマデ、寸増ノ形像ヲツクリ供養スル事、毎年ノ勤ニ候ト申ケリ。經範卿ハ彼没後ノ願文ニ、榮<sup>ハ</sup>期力衰齡ヲサキタツル事一年トカ、レタリ。実ニ拔群ノ齡ナリ。建長第二ノ年、或貴女御壽限ニアイアタラセ給ヨシヲ諸道一同ニ勸申ケレバ、イカナル御祈ヲ

カ、ハジメラルベキト僧ニトハレケリ。五指量愛染王ヲ造立シテ、御<sup>ミカド</sup>護<sup>ゴ</sup>トシテヲナシキ法ヲ精誠ニヲコナハセラルベシト<sup>ハカシ</sup>斗<sup>ハカシ</sup>申(ス)。即申ガゴトクニ御サタアリケリ。又毎日ニ、形像一軀ヲ図繪供養セラレケリ。サルホドニ前ニハ常ニ御邪氣ナドイフ事アレドモ、其年ハ聊ノ御ツ、ガモナカリケレバ、フカク此明王ヲ信ゼサセ給テ、ヤガテ長日御祈タルベシト定ラレニケリ。実ニ人身ウケガタク、仏法アヒガタシ。若(ク)ハ前生ノ果報ヲタモチ、若(ク)ハ来世ノ善因ヲタクハエムガタメニ、必(ツ)先(ツ)信敬セシムベキハ壽命長遠ノ靈驗也。何(ゾ)況(ヤ)最上ノ悉地ヲウル人ハ不壞金剛ノ身ヲ証スルヲヤ。

## (二、病患悉除)

次病患悉除者、前ニ引(ク)トコロノ安立衆生界、コノ文ハ息災ノ法ナルガユヘニ、除病延命安穩快樂ノ心ヲ相兼タリ。又御室ハ此尊真言ニテ御齋食ヲ加持セサセ給ケリ。其一粒ヲ分給テ受用スル人ハイカナル病モ除愈セズトイフ事ナシ。況(ヤ)我身ハ八十一ニテヲハラセ給マデ、無病自在、起居輕利ニヲハシマシケリ。

小野前大僧正親嚴ハ、三十有余ノコロ、高野ニ千日籠ジテ、御影堂ニ通夜セラレタリケルニ、愛染王ヲ本尊トスベキヨシノ夢想ノ告ヲカウフリテ、殊ニ持念修行セラレケリ。二万余日ノ護摩一日モ退転セズ。数代跡絶タル秘法、興行スル事七箇度也。承久ノハジメノトシハ東関靜謐ノ法驗ヲホドコシ、貞永ノ秋ノコロハ、西叡豐稔ノ勸賞ニアヅカル。天福ノ炎旱ニハ、東寺天台ノ水天供モ感應アラハレガタク神泉清滝ノ御読經モ効驗イマダミエザリシカバ、重テ此僧正ニ仰テ五穀成熟ノタメニ禁中ニシテ、秘法ヲ始行セラルベキ用意有ケルヲ、マツ祈雨ヲ<sup>□</sup>トシテ、七箇日ノ中ニ法驗ナクバ請雨經法ヲ始ベシト仰ラ<sup>ル</sup>ル<sup>ル</sup>処ニ神泉清滝ノ御読經結願ノノチ、秘法第七日ニアタルタ、陰雲俄ニヲコリテ、甘雨忽ニクダル。職事兼高ノ奉行ニテ、叡感綸旨ヲクダサル<sup>ニ</sup>ニイハク。秘法修中ニ甘沢忽ニクダル。仏日西天ニカクルトイヘドモ、法水猶東寺ニ殘歟。殊(ニ)感(ジ)思<sup>オホシメス</sup>食<sup>イロイモ</sup>。弥精誠ヲ抽ヨ



ト云ニ、貴賤賀札ヲ(ヲ)クリ、緇素青鳥ヲトバス。其中ニ管大府卿ノ幸札(ニ)云、白衣弟子為長頓首、東寺ノ長老大僧正ノ足下。夜前之日澍者天下之大慶也。神泉清滝之御読經席ヲ卷テノチ、独(リ)法驗ヲホドコシメ給。拔群トイフヘキカ。三方ノ修中ニ一藩若下(ラ)者混亂有ベシ。相論有ベシ。二方結願一法独(リ)留ル昨日ノ躰タラク、朝ニ行雲ナシ、タニ大雨アリ。大法雨トイフベシ。愛染雨ト名(ヅク)ベシ。歡喜雨ト名(ヅク)ベシ。非情草木ミナコレニウルヲヒテ、ヨロコブイロアリ。心アラム貴賤タレカコレニツヒテ、感懷ヲウゴカサドラム。昔孔子者魯ノ大聖也。時雨ノ百穀ニソ、グガゴトシ。伝説者殷之良弼也。旱天ノ霜雨ヲ得タルニオナジ。情(ツラサウ)国師大僧正ノ吾朝ニ在ヲ思ヘバ、己ニ異域ニ君子ノ兩王ニ仕シニ越タリ。申ニツケテ恐アリトイエドモ、老ヲ以テハダカラザル所也ト云々。秘法ノ靈感毎度ニカクノゴトシ。凡五代聖朝ニ仕テ、一宗棟梁タリシ間、法驗ニ依テ勤賞ヲ蒙(ル)事三十度ニアマリ、密場ヲ開テ灌頂ヲ授(クル)事三十人ニミテリ。高雄ノ高弁聖人ハ宝樓閣法ヲ受テ、宝藏ノ余薫ヲヨロコビ、僧正ハ都率ノ化儀ヲ談ジテ、見仏聞法ヲ契(リ)給ケリ。終焉ノ剋ニハ、門資ノ中ニ、彼上生ノ瑞夢ヲ感ズル人アリケリ。世間出世自行化他一トシテ闕タル所ナシ。八十六ノ齡ヲ送マデ聊モ病ヲウレヘザリケルハ、世間ニマレナル事也。サレバ一生無病行法不退ハ、此(ノ)尊ノ利生ナリトソ自歎セラレケル。マコトニ徳ヲウシナヒ、道ノサフルモ病患ノ因縁ナレバ、昔戒賢論師惱亂ノ業ヲウレヘテ、身命ヲ棄(ム)トセシヲ、文殊・弥勒・觀音等ノ三聖來テコソ慰愈シ給ケレ。今此尊ノ我当降甘露トイエル本誓ニヨリテ、行者ヲシテ金剛ノ性ヲ授(ケ)給。実ニタノモシカルベキ事也。

### (三)、榮官殊勝

次榮官殊勝者本經云(ク)。三世三界ノ中ニ一切ヨク越タルモノナシト。又經云。若榮官益職ノタメニハマサニ宝弓ノ手ニヲイテスベシトイエリ。

九条相國ハ小野増俊阿闍梨ノ師壇ナリ。殊ニ愛染王ヲ仰信シテ、ツトメヲムコナハセラルム事カギリナシ。等身ノ像一軀、五指量ノ像一萬軀ヲ造立シテ帰敬セラレケリ。カムルユヘニコソ皇帝ノ御舅トナリテ、相將ノ絶タルアトヲモヲコサレケメ。

園城寺大僧正禎喜者、高野山ノ修練二千日、愛染王ノ持念七十年、一切瑜伽ノ悉地ヲノゾカラアラハレ、吾宗前途ノ素懷コト々々遂給ヘリ。彼南山ニ經行セシ昔ハ、金色ノ孔雀奇瑞ヲシメシ、神泉ニ雨ヲイノリシ時ハ、白竜出現シテ甘澍ヲクダス。凡竜顔ニチカヅキテ□方ノ所望ヲ達セシカバ、希代ノ眉目ヲホドコス事、其數ヲシラズ。惠命ハコレ八十八、法体堅固ニシテ一生ヲ送レリ。若此尊ノ威力ニアラズバ、イカデカ、カヤウノ榮運ヲヒラクベキヤ。

### 四、福德円満

次福德円満者本經云(ク)、一切ノ福ヲ増益シテ堅固ナル事金剛ノゴトシト。又云、能無量ノ罪ヲ滅シ、能無量ノ福ヲ生ズト。又云、蓮下ニ宝瓶アリ、兩畔ヨリ諸宝ヲハクトイヘリ。

法性寺殿者等身ノ像ヲ彫刻シテ、知法ノ護持僧等ニヲコナハセラレケリ。何事モメデタキ御運トハ申ナガラ、福德円満ノカタ、殊(ニ)スグレサセ給ヘリ。光明峰寺禪定殿下ハ此尊ノ御帰依、希異未曾有ニヲハシマシケリ。曜宿相応ノ日、白檀五指量ノ像ヲツクリ、供養セララルム事其數ヲシラズ。或ハ白檀一尺六寸ノ形像ヲツクリ、平等院ノ御仏ヲウツシ、或ハ古像ヲアガメテ、昼夜不斷ノ供養法ヲハジメ、臨時ノ護摩修法、毎年秘法等ヲ勤修セラル。或(ハ)又等身像一体、五指量像一万余ヲ造テ、莊嚴藏院ニ安置シ、供僧十八口ヲ定補シテ、日来ノ不斷ノ供養法ヲウツシワタサル。カヤウノ御ツトメ無尽ナリシカバ、御榮ノ有サマ先規ニモ越タリ。相伝御家領一所モナカリシニ、百余所ノ御領出来、大國熟國御心ニマカセテシラセ給ヘリ。相納言ノ故摂政殿ヨリモ猶短命ニヲハシマスベシト申ケルニ、御子孫ノ繁昌ヲモアクマデ御覽ジテ、御年六十二ナラセ給ケルハ、ヒトヘニ此明王ノ大神驗ナ



リ。此第三第四ハ増益ノ法也。

### (五、敬愛甚深)

次敬愛甚深者本經云、能一切ノ見者ヲシテ父母妻子ノ想ヲ生シテ、所作ミナ成熟スル事ヲエシメト。又云、衆星ノ光ヲイルガゴトクニシテ、ヨク大染法ヲセシムトイヘリ。

堀河中宮者<sup>ミナト</sup>広寿上人ノ再誕也。此尊ノ悲願ヲ信ゼサセ給ニヨリテ、天皇ノ寵幸コトニ甚深ニヲハシマシケリ。其御身カクレサセ給テノチ、宿生ノ大願成就シテ、イマニ紹隆仏法ノ芳躅タリ。

高野山伝法院本願覺鑒聖人者、成就院大僧正寛助入室写瓶<sup>ノ</sup>弟子也。高祖大師ノ遺誡ヲ守テ、事相教相ノ惠燈ヲカミゲ、鳥羽法皇ノ叡慮ニ依テ、人法紹隆ノ素懷ヲ遂給ケリ。高野ノ麓<sup>ノ</sup>ニ國領七箇所ヲ庄<sup>ト</sup>号シテ伝法院ニ寄ラレケルハ、実ニ希代ノ事也。サレバ中右記ニハ七歳ヨリ大日呪ヲ持テ、ネカウトコロ花藏世界也。真言宗ノ經文數ヲホク暗誦セリ。末代ニ頗<sup>ル</sup>有ガタキ人ナリトイヘリ。宿曜師行賀奏聞シタリケルハ、八幡宮ノ示現ニハ、誰トモシラス上人、宝前ニ参会シタリ。行賀<sup>イザサ</sup>聊<sup>シ</sup>マドロミタルニ、束帶ニ笏タ、シウシタル人、御宝殿ヨリイデ、地ニヲリムカヒ、上人ヲ拝シ給ト思程ニ、打驚テミレバ、聖人一人本ノゴトク宝前ニ坐セリ。其案内ヲ尋レバ、高野ノ正覺房覺鑒、興法利生ノ祈請ノタメニ、参<sup>リ</sup>タルヨシヲ返答セリト注申セリ。成就院僧正ニ灌頂セラレケルニハ、蓮台ノ上マデ、眉間ヨリ白色ノ光ヲハナツニヨリテ、僧正椅子ヲ、リテ、札拜シ給ヘリ。サレバ広沢ノ流ニハ大事ヨク伝タル人トゾキコエケル。小野流ニハ理性院法眼賢覺ニ随テ、秘密ノ奥旨ヲナラビキハメ、鳥羽御倉ノ秘事、悉<sup>ク</sup>申出テ書写シ、重宝ヲ、ク拝領シテ、門跡ニ伝タリ。宗義教相ニヲキテハ顯密学徒諄論カマビスシカリケレド、天台ニハ信賢鼻三藏トキコエケル明匠、仙洞ニ召合ラレテ、即身成仏ノ義ニ帰伏シテ、礼儀法ニスギタリケレバ、山門ノ衆、勘ヲカウブラシメケリ。南都ニハ珍海已講殊ニ顯密ノ宗義ヲアラソフ人也ケレドモ、其モツイニハ疑難ノ

心ヲヒルガヘシテ、懺悔ノタメニ、彼聖人ノ本尊、等身ノ大日ヲ図繪シテ渡<sup>シ</sup>奉ケリ。或時美福門院、甚深<sup>ノ</sup>御祈ヲ仰付<sup>ケ</sup>ケリ。カタク辭退シ申サレケレド、御念猶ゾスギガタキニヨリテ、此尊ノ法ヲ修シ給処ニ、効驗奇特ニシテ、御願スナハチ成就シテケレバ、御帰依イヨ<sup>ハ</sup>ハナハダシキキコエケリ。高野ノ御手印縁起御遺戒文等ハ公家ニツタハリテ久<sup>シク</sup>ナリニケルヲ、此上人女院ニ申請<sup>フ</sup>ニ依テ、本山ニカヘサレニケリ。彼敬愛法驗ヲホク、人法紹隆ノモトヒトゾナリニケル。

後法性寺准后ハ五指量像一千体ヲ造立セサセ給テ、トリワキ<sup>タノモシ</sup>馮<sup>ノ</sup>シ<sup>ク</sup>思食<sup>シ</sup>タル護持僧等ニヲコナハセラレケリ。当世ニモ或ハ古仏ヲ信ジ、或ハ新像ヲアガメラル。其靈驗皆揭焉也。凡<sup>オホシ</sup>敬愛悉地ハ男女ニカギラズ、一切緇素尊卑乃至仏天ノ境界マデモ、更ニヨク染愛シテ速ニ所求成就スルナリ。

### (六、悉地速疾)

次悉地速疾者、本經云、一切瑜伽ノ中ニヲキテ、最尊最勝ニシテ、速ニ悉地ヲ獲シムト。又云、所持ノモノ<sup>ノ</sup>ノ真言、若仏頂部及諸如来部蓮華部金剛部羯磨部等皆能彼等ノ真言ヲ持討シテ、速ニ百千ノ事ヲ成ストイヘリ。

後三条院東宮ニテ久<sup>シク</sup>オハシマス間、御願成就ノタメニ、イカナル御祈ヲカ修セラルベキト、小野僧都成尊ニ仰合ケレバ、速疾成就ノ法ヲ修セラルベシト計<sup>リ</sup>申給。件<sup>ノ</sup>法ハ何法ゾトハル。愛染王法ニ候ト申サレケリ。即彼僧都ニ勤修セサセラル、処ニ、法驗マコトニ速疾ニシテ、御願程ナク成就シケレバ、僧都勸願ニ准テ、丈六形像ヲ彫刻シテ、曼荼羅寺ノ金堂ニ安置<sup>アムチ</sup>シ給ケリ。

東一条院ハ御テ、ハ、ニトクヲクレサセ給テ扶持シタマツルベキ人モヲハシマサマリケルニ、建保ノコロヲヒ、慈珍僧正愛染王護摩ヲ始テ、殊ニ護持ヲイタサレケリ。其後程ナク御入内ノ沙汰イデキテ、国母ニナラセ給マデノメデタキ御事ナリケレバ、上東門院ヨリコノカ

タ、撰録家ニハタエテ久キ事ノ、此御時ハジメテイデキスルハ、ヒトヘニ此尊ノ靈効ナリトテ、僧正イヨ／＼仰信シ給ケリ。山門ニハ昔ヨリ行伝(ニ)タル法ナラネドモ、悉地速疾ナルユヘニ、長日ニ修シ給ヨシ申サレケリ。サレドモ後ニハ東寺ノ人ニ申ワタサレニケリ。

仁治三年皇子降誕ニハ、御驗者法印正範最前ヨリ千手法ヲ勤修シケリ。其後隨心院權僧正宣嚴、愛染王法ヲ始行セラレケルニ、皇子御降誕、御産平安ナリケレバ、自余御祈ヲモハジメラズ。此法ノ効驗ノミ嚴重ニハキコエケリ。此第五第六ハ敬愛ノ法也。世間出世ノ事業速ニ成就セズトイフ事ナシ。是明王ノ護摩ノ中ニハ敬愛ヲ最勝トストイヘリ。

### 七、摧伏怨敵

次摧伏怨敵者、本經云、一切惡心ノ衆、速ニ滅シテ疑有(ル)事ナシト。又云、一切ノ有情(ノ)類及諸ノ刹王、撰伏スル事奴僕ノゴトシトイヘリ。

嵯峨天皇、怨讎ヲ恐(レ)思食(シ)ケルニハ、弘法大師白月鬼宿ノ日、禁中ニシテ、一日ノ中ニ白檀五指量愛染王ヲ造立供養シテ、御護ノタメニワタシ奉給ケレバ、撰伏如奴僕ノ説文サラニタガフ事ナカリケリ。彼御仏ヲバ、法勝寺円堂ノ本仏ノ御身ニコメテ、殊ニアガメル、処也。

朱雀院御宇、將門逆乱ノ時、法皇、寺ノ弘法大師ノ御影ヲ清涼殿ニ渡奉テ、其御前ニ密檀ヲタテ、濟高大僧都愛染王法ヲ修シ給ケレバ、靈驗速疾ニシテ、勅敵タヤスクホロビニケリ。時ノ人、子細ヲワキマヘズ、世ニコゾリテアヤシミヲナシケリ。

御堂関白ハ、怨家コハクヲハシマシケレドモ、小野僧正此法ヲ修シテ、護持シ給ニヨリテ、御堂ハツ、ガナク怨家ハホロビニケリ。或時彼怨家調伏ノ法ヲコナハセラレケルニ、大元明王夢中ニ顯現シテ、御堂ニムカヒテ、箭ヲハナチ給。僧正中ニ入テ、タチヘダテ給ケレバ、其箭僧正ニアタリ、又夢サメテ、ベチノクルシミナシトイヘドモ、箭

ノアトハ、後マデモウセザリケリ。

西園寺入道太相國者、承久大乱ノ時、纔臣ニハカラレテ、其身ヲ誅セラレムトスルコト、タビ／＼ナリケレバ、心中ニ願ヲコシ給ケリ。我若今度／＼ノ災殃ヲノガレテ、運命ヲマタフセバ、三箇年ガ中ニ、五指量愛染王一万体ヲ造立シテ、一堂ニ安置シタマツルベシトネムゴロニ祈念シ給程ニ、纔臣コト／＼クホロビニケレバ、時ノ災ヲノガル、ノミニアラズ、威勢コトニヲモクナリ給ニケリ。彼願ヲハタサムガタメニ、西園寺ノ中ニ成就心院ヲ建テ、等身ノ像ヲ中尊トシテ、五指量ノ像一万体ヲ内陳ニ安置シ、十八口ノ供僧ヲ定補(シ)テ、長時不斷ノ供養法、毎月一昼夜ノ三十万遍ノ御念誦、四季七箇日ノ護摩ヲハジメヲキ、其後又一万體ヲ造立シテ外陳ニ安置セラル。臨時ノ御念誦、御修法、三十檀等ノ勤ニヲヒテハ、其数ヲシラズ。カヤウノ顯示奇異殊勝ナレバ、靈驗揭焉ニシテ勝利不思議也。後官職家ヲコロシ、寿福世ニ勝(レ)給シヨリコノカタ一門繁昌ノ次第、後胤榮貴ノアリサマ、実ニタマ事ニハアラズ。

### (八、消除災障)

次消除災障者、本經云、若七曜ノ命業、胎等ノ宿ヲ凌逼セムト乃至積梵尊水火風焰魔トノ頂行ノ惡類ヲシテ、スミヤカニ無道ノ方ニハシラシメム。一切ノ惡種、善淨行ノ苾芻衆、難調ノ毒竜、那羅延自在護世四天王速ニシタガヘテ、命ヲツクサシメムト。又云(ク)此障速除滅シテ、少モ親近スルコトエジトイヘリ。

高祖大師四恩ノ広徳ヲ報シ、三宝ノ妙道ヲヒロメムトチカヒテ、延暦廿三年ニ渡唐セムトシ給(フ)キザミ、鎮西ニシテ八幡大菩薩、赤色ニテ、日輪ヲイタマキタル僧形ニ現ジテ、大師ヲ加護シ給ベキ御約諾アリケレバ、則件ノ御影ヲ図繪シテ、隨身シ奉リ給ケリ。在唐ノ間、願ノゴトク真言宗ノ經教ヲ伝持シテ、大同元年ニ帰朝セントシ給時、大菩薩又形ヲ現シテ、愛染王ノ日暉ノ相ヲ示(シ)給ケルニヨリテ、白月鬼宿ノ日、白檀ノ五指量ノ像ヲ造立頂戴シテ、風波ノ難ヲノ



ガレ、波旬ノ障ヲシリゾケテ、三宝ノ教ヲ吾朝ニ弘<sup>(メ)</sup>給ヘリ。彼大菩薩ノ御影ヲバ、高雄ノ金堂ニ安置シ奉リテ、神護寺トナヅケラレタル、定<sup>(メ)</sup>テユヘアルベキ事也。カヤウニアラタナル例証ヲハシマスニヨリテ、八幡別当光清ハ、愛染王ノ大菩薩ノ御本地ニテヲハシマスヨシヲ、白河院ニ奏<sup>(シ)</sup>申<sup>(シ)</sup>タリケリ。當時ノ檢校宮清法印モ其ノ旨ヲ存シテ、社壇ノ砌ニ丈六ノ愛染王堂ヲ建立セリ。且ハ此事ノ神慮ニ相叶ヘルユヘニヤ、社務ヲ久<sup>(シ)</sup>クタモテル事先規ニコエタリ。然者此尊ハ百王叢社ノ神体也。公家尤<sup>(モ)</sup>トモ御<sup>(シ)</sup>ベシ、三略武術ノ宗廟也。武家殊ニアガメラルベキニヤ。

高野御室法驗ヲホドコシ給シヨリコノカタ、代々御室ハジメタル公家ノ御修法ニハカナラズ愛染王法ヲ修セラル。尤子細アルベキ事也。一切ノ悉地ヲエザルハ、タバシ魔障ノコワキ故也。而ヲ此明王ハヨク自性所生ノサハリヲゾギ給。況自余ノ災障ニヲキテヲヤ。

三宝院權僧正勝覺ハ、戒行徳高キ人也。愛染明王ノ薰修ヲツミテ、現当二世ノ悉地ヲ祈給ケリ。上醍醐ニ籠テ、千日護摩ヲ修スル事三箇度、初二度ハ今生ノ弘法利生ヲ祈念シ、後一度ハ一向西浄土ニ廻向セラレケリ。東寺東大寺等ノ六七箇寺ヲ執務シテ、各紹隆ノ力ヲツクシ、請雨仁王經等大法秘法ヲ勤修シテ、必効驗ノ名ヲアゲ給ヘリ。待賢門院ノ御榮メデタクヲハシマシケルヲ、彼僧正愛染王ノ薰修ニテ、一向ニ護持シ奉給ケリ。今生ノ願念スデニサハリナシ。出離ノ素懷ナムゾウタガハム。サレバ禪林寺律師永觀ハ無量壽院ヲ伝受シテ浄土ノ良縁ヲムスビ給ヘリ。

九条僧都隆聖ハ建久明時ニ出テ、承元聖代ニ仕シ人也。出家ノハジメ、大師遺誨ノ旨ニマカセテ、三箇年ノ高野籠ヲ遂シノミニアラズ、師範隱遁ノヲリニアヒテ、当山修練星霜良久カリケリ。齡五旬ニ闌テ、神宮ニ參籠シテ、金輪護摩一千日シヲハリテ、即又愛染王護摩ヲハジメテ、同ク千日ヲ期スルトコロニ、知法英雄ノ僧清撰四人ガ中ニテ、俄ニメシイダサレニケレバ、紹隆ノ素懷自然トシテ成就シケリ。件<sup>(ノ)</sup>四人者印性、宗岐、觀岐、隆聖也。于時印性・宗岐ハ綱位、觀

岐・隆聖ハ凡僧也。貴哉、瑜伽最勝ノ尊法、障難カナラズ除滅ス。誠<sup>(ナル)</sup>哉、仏頂真言ヲ持符シテ、一時ニ成就ヲアタヘ給。彼行人ノ夢ヲ示シ、七百余日ノ効驗、那智權現擁護ヲイタス。此僧都ノ徳ヲアラハスモ七百余日ノ薰修、皇太神宮加被ヲタレ給ヘリ。知<sup>(ル)</sup>ベシ、法海一味ナレドモ、悉地ニ淺深アリ。神通平等ナレドモ、感應カナラズヲナジカラズ。惣ニ密藏枢ヲコトニシ、甘露味ヲワカツユヘナリ。抑師資志ヲ同シテ、都率ヲ願求シケルニ、弟子サキダチテユキニケレバ大師御作ノ中ニ、或ハ馬ヲハセ、車ヲハシラカシテ、先ニスデニ発心セリトイヘル事ヲ思テ、弥<sup>(イヨイモ)</sup>發露懺悔シテ、偏ニ行路ノ資ヲイトナマレケリ。此第七、第八者降伏ノ法也。惡業煩惱ノ怨敵ヲモクダキ、根本無明ノ重障ヲモホロボス。出離ノ頓門タバシ此中ニアリ。解脱ノ要路外ニ求ベカラズ。誠<sup>(ニ)</sup>是如来神力加持ノ方便、密藏深奥究竟ノ秘法也。

#### (九、發菩提心)

次發菩提心者、此尊ハ五部諸尊ノ惣體也。就<sup>(ナカシメ)</sup>中金剛部ヲ本鉢トシテ、普賢薩埵ノ相ヲ現シ、發菩提心ノ義ヲ示ス。儀形如薩埵安立衆生界トイエルハ、專<sup>(ラ)</sup>此義ヲ述タル文也。

高野山檢校琳賢阿闍梨者、鳥羽院ノ御世ノ人也。壯年ヨリ此明王ヲ信シ奉テ、ネムゴロニ菩提心ヲ祈請シケリ。果<sup>(シテ)</sup>則<sup>(チ)</sup>堅固ノ道心ヲ發テ、慈尊ノ來迎ニ預ニケリ。御鳥羽院当山御幸ノ時、彼奏堂ノ四壁自然ニ頽落シテ、往還ノ人、其中ヲミルニ、端坐合掌ノアリサマタグヒ、イキタル人ニカハラザリケレバ、月卿雲客其砌ニ臨テ縋素上下渴仰ヲイタシテ來縁ヲムスビケリ。

大吉祥院僧正公胤者寺門ノ人ナレトモ、此尊本誓悲願勝<sup>(レ)</sup>給ヘルニヨリテ、後生菩提ノタメニ、長日行法シ修スルヨシ、内記入道□仏ト聞シヒジリニカタラレケリ。

建長ノハジメツカタニ、定紹阿闍梨ト云人、東寺ニ千日籠シテ愛染王護摩ヲ修<sup>(シ)</sup>ケリ。日數スデニ<sup>(満)</sup>チケルキザミ、俄ニ世間ヲ厭テ、



イ禁戒ヲマモリ、フカク観行ヲコラシケリ。其後、幾年月ヲヘダテズ、指(シ)タル病患ナカリケルニ、時スデニイタレリトテ、弥陀尊ニムカヒタテマツリテ、正念ニ安住シ、端坐ウゴカサズ、密印ヲムスビ、宝号ヲ唱(フル)事良久(シク)シテ終ニケレバ、見聞隨喜ノ輩、雲霞ノゴトクナリケリ。

### (十、往生淨土)

次往生淨土者、本經云、惡趣ヲ開テ罪ヲハナチ、及極樂界知足天王宮ニ往(ク)事、心ニ隨テスナハチエムトイヘリ。此經文ハ仏大悲□三昧入テノ方便、為究竟ノ法ヲ説給。即是愛染王ノ第三句ノ所構。

觀果入寺ト申ケル人ハ、小野僧正受法灌頂ノ弟子、愛染明王薰修年久(シ)キ持者也。居ヲ東寺三面ノ僧坊ニシメテ、心ヲ西方九品ノ仏土ニ懸ケレバ、本尊ノ利生サラニムナシカラズシテ、往生ノ瑞相ハナハダ奇異ナリケリ。

伊与入道頼義者、大御室ニ參テ、最後臨終ノ時、正念タガハズ決定往生スベキ様ヲシヘサセ給ヘト懇ニ申サレケレバ、弥陀ノ宝号ヲ返數カギラズ、ヨク／＼唱テ、今ハ最後トヲボエム時、金剛合掌シテ南無愛染明王ト申(ス)ベシト仰セラレケリ。入道此様ヲ承テ後ハ、カギリナク仰信シテ、終焉ノ儀更ニ相違セズ、往生ノ衆、聊モ其疑ナカリケリ。

小野権僧正範俊、凡僧ニテ那智二千日籠(リ)シテ、愛染王護摩ヲ修シ給間、神母女化現シテ、現世ハ法務僧正、後生ハ都率内院ト示給ケリ。イハヤニテ壇上ニ如意宝珠出現シタリケレバ取テ金銀ノ宮ニ入テ、地ノ底ニウヅミ給ヘリ。其ヨリノチハイカナル天下ノ飢饉ニモ御山中ニ時料タユル事ナシ。コレニヨリテ件ノ所ヲバ愛染王ノイワヤトイヒツタヘタリ。白河院竹人ヲ召仕ベキヨシノ御夢想アリケルヲ、江師ニトハレケレバ、範俊ヲ召仕ベキ告ナリト申(ス)ニヨリテ、ヤガテ那智ヨリメシイダサレテ、鳥羽殿ニ參給ヲ、上皇又御夢ニ御覽セラレケレバ、虚空同□欠愛染王ニ變ジテ見參ニ入給ケリ。カヤウノ靈驗ヲ

ク上皇ノ歡信ヨリアラハレテ、此御時ハジメテ秘法ヲモアガメヲコナハセラレケレバ、現世ノ官職シミヤカニイタリテ、神母ノ示現ムナシカラザル勝躍ヲトドメ、後世ノ業因ハヤクサダマリテ、往生淨土ノ疑ナキ瑞相ヲアラハシ給ケリ。

此第九第十ハ鈎召ノ法也。無明煩惱ノ障ヲノゾクニヨリテ、菩提心ヲコシヤスク、無上菩提ノ心ヲ発(スル)ヲ以テ往生淨土ガタシトス。若上根上智ニシテ深ク信シ、深ク修セバ、現世ニ初地ヲモ証シ、即身ニ仏果ニモ至ベシ。故(ニ)經(ニ)云。速ニ大金剛位ノ主、普賢菩薩位ヲ得トイヘリ。カクノゴトキノ殊勝靈驗ヲアラハス人々、或ハ兩三ヲモ相兼(ネ)、或ハ十種ニモヲヨベリ。然而聊十種別德ヲワカタムトシテ、更ニ一行ノ勝利ヲヌキツ。□録ヒロキニヲヨバズ、九牛ガ一毛也。

情、大悲利生ノ根源ヲタヅヌレバ、無辺ノ衆生界ヲ度シツクサムガタメニ、長ク極愛一子地ニトマリ往シ給ヘリ。タトヘバ、此尊ノ衆生ヲアハレミ給事、悲母(ノ)一子ヲ思ガゴトシ。或經ニ無相ヲ説テイハク。諸衆生ノ煩惱病ノタメニマドハサル、ヲミテ、切ナルコ、ロニウレハナヤム事子ノゴトシ。身ノモロ／＼ノ毛孔ヨリ血皆ナガレイヅト。又本經ニハ一切諸仏母トイヘリ。此極愛(ノ)一字地ニヲイテ甚深不可思議ノ大悲三昧ニイリ、最極秘密ノ奇特ノ善巧方便ヲホドコシ給ニヨリテ、仏母德広ケレバ、五部五智ノ真言ヲ持尉シ、悲願独(リ)秀(レ)タレバ、最尊最勝ノ悉地ヲ成就ストイエリ。凡厥義利堅固ニシテ、標相奇異也。故ニ大師表(ニ)云ク。密藏深玄ニシテ翰墨ニ載(セ)ガタシ。更ニ図繪ヲカギリテ、サトラザルニ開示ス。種々ノ威儀、種々ノ印契、大悲ヨリ出テ、ヒトタビミタテマツレバ、成仏スト方ニ□欠ベシ。造像持念ノ人、勝利実ニ揭焉也。況又三十万躰ノ形像ヲ建立シタテマツリテ、三十万遍念誦ヲツトメヲコナハシメムヲヤ。

明応第七曆年六月下旬天不慮(求得丸)之

重宝秘藏ミミ殊勝題目多之

金剛資賢融生廿二年

伝 領 俊 雄